富山市議会
12月定例会
2021年12/1～12/21

「適正規模」（1学年 2~3クラス）への機械的な統廃合は―

地域の「活性化」と大きく矛盾

赤星・吉田市議「小規模校こそ残せ」

12月定例会で、小・中学校の統廃合問題が大きなテーマになりました。吉田おさむ市議と赤星ゆかり市議が一般質問と委員会で取り上げ、地域の「活性化」と大きく矛盾する「統廃合案」を厳しく批判しました。現在、「通学区域審議会」で「再編」原案を審議中で、2月に最終答申する予定です。

一般質問で

地域住民の声を受けとめ 山田・細入の学校存続を

吉田議員の質問動画→

吉田おさむ市議は「再編」原案について、「適正規模」（小学校は1学年2クラス以上）にするための機械的な「あてはめ」にすぎないと指摘。「効率化よりも一人ひとりを大切にした教育ができる環境を。小さな学校こそ残してほしい」とのパブリックコメントに寄せられた教員OBの声を紹介し、小規模がゆえにできることもたくさんあるのではないか、と問いかけました。

地元住民の意見を聴く姿勢が大事

呉羽地区連合自治振興会主催の「出前説明会」（11月13日）では、市教委の担当者が「審議会で審議中であり、意見表明や質問にはお答えできない」と述べ、一切質問を受けませんでした。

「最終答申」までに、審議会として対象地域の意見・要望を聴くべきと求めましたが、市教委は、4月以降に地域に出かけて聴くとの答弁に終始しました。

市長「今の時期に見解を言うのは適切でない」

山田・細入地域の住民のみなさんが「学校の存続を」と市長に要望書を出し、住民署名も取り組まれました。吉田市議は両地域に出かけ、想いを聴いて、「学校が無くなれば、長い歴史をもつ細入、山田が無くなることにつながるとの危機感を感じたと述べ、藤井市長に地域事情を総合的に勘案し、小・中学校を存続させるべきと求めました。藤井市長は、「地域の要望は受けとめている。今の段階で見解を言うのは適切ではない」と明言を避けました。

赤星ゆかり議員（12/9 本会議）

吉田おさむ議員（12/7 本会議）

小・中学校 統廃合の対象校

（「再編」原案；赤文字が対象校）
※水橋小・中・（※①）と八尾中学校（※②）は地域の合意済。

地域	小学校	中学校
富山中央	芝園、中央、西田地方 光陽、柳町、奥田北、 奥田、堀川	芝園、堀川、 南部、奥田、 大泉
富山北部	浜黒崎、岩瀬、萩浦、 大広田、針原、豊田	北部、岩瀬
和合	四方、八幡、草島、倉垣	和合
呉羽	呉羽、長岡、寒江、古沢、 老田、池多	呉羽
富山西部	桜谷、五福、神明	西部
富山南部	堀川南、蜷川、新保、 熊野、月岡	月岡、興南
富山東部	東部、山室、山室中部、 太田、広田、新庄、 新庄北、藤ノ木	東部、新庄、 山室、 藤ノ木
水橋 ※①	水橋中部、水橋西部、 水橋東部、三郷、上条	水橋、三成
大沢野	大沢野、大久保、船峅	大沢野
大山	上滝、大庄、福沢、小見	上滝
八尾	八尾、杉原、保内、樫尾	※②八尾、杉原
婦中	速星、鵜坂、朝日、宮野、 古里、音川、神保	速星、城山
山田	山田	山田
細入	神通碧	楡原
14 地域 生活圏	再編対象校 …30 校 /65 校	5 校 /26 校 （水橋・八尾含む）

（富山市教育委員会資料より市議会日本共産党が作成）

総務文教委員会で

小規模校が世界の流れ

全学年1学級、生徒数100人程度

赤星ゆかり市議は総務文教委員会で、市教育委員会が小・中学校再編の根拠としている小学校の「適正規模（1学年2～3学級）」について、根拠が薄いと指摘しました。

文科省『手引』でも「弾力的なもの」「この点に留意を」

法令では学校を統合する場合に学校の規模を「12～18学級」とすれば、国が校舎や体育館の建築費の2分の1を負担するというものであって、文科省発行の『公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引』（H27年1月）**（1）学校規模の適正化【検討の際に考慮すべき観点】**の冒頭に、次のように書かれてあります。

> ◎法令上、学校規模の標準は、学級数により設定されており、小・中学校ともに「12学級以上18学級以下」が標準とされていますが、「この標準は「特別の事情があるときはこの限りでない」という弾力的なものとなっていることに留意が必要です。

つまり、「標準規模」は教育上効果の根拠でもなく、しかも絶対的なものでもないことがわかります。

「学校規模」も「学級規模」も大きい日本の小学校

「ユネスコ文化統計年鑑1999」によれば、外国の学校規模（初等教育）は100～200人程度で1学年1学級、クラス替えなしが一般的です。

2020年3月13日富山新聞より

南砺市教育長
松本 謙一さん
「学校の規模」に関して

1クラス20人ぐらい 全部で100人ぐらいがいい

「1クラス20人ぐらい、全部で100人ぐらいが一番いい、すべての先生が子ども全員を分かる。校区も広くならず、地域と一体化した人間味あふれる教育になる。世界の教育学者も同じことを言っとる。」

554件 パブリックコメント 「再編」原案に反対90%

市教委は「再編」原案について市民の意見を聞くパブリックコメントを実施（11/15～ 12/15）しました。554件の声が寄せられ、原案に反対が89.7%、賛成は4.6%でした。　（集計は日本共産党会派）

- ●婦中・朝日小学校は小規模特認校としてH29 年4月 40 人から現在 60 人（地区外 15 人）、R 4 年度は 70 人になる予定。…小規模特認校を残してほしい。
- ●学校が無くなることは信じがたい。長きにわたって築いてきた地域の生活、文化、歴史の根底をなす学校が無くなることは死活問題。合併前の活気は無い。地域の笑顔を戻し、後世に山田を残したい。
- ●1時間半もかけて通学。子育て世代や若者が村を去ることにならないか。人の営みに対して、経費削減だけでいいのか。再考を。
- ●数合わせで再編するのは反対。細入の小・中学校は、ユネスコスクールなど特色があり成果もあげている。存続を。
- ●学校再編だけを議論するのではなく、地域の活性化のための目標や計画を立てることが必要だ。
- ●もっと地域住民に説明を尽くし、意見を聞いて決めてほしい。
- ●（細入から）学校を無くすることは、地域をつぶすこと。文化、歴史、つながりをなくすこと。住んでいる近くに学校があることで地域の特性を活かした学びができる。
- ●子どもたちの元気な姿を見ることで地域は活性化する。学校統合によって地域が衰退することは明らか。
- ●（大沢野・船峅小は）発達障害児専門のクラスを併設している。ぜひ存続を願う。
- ●郡部出身の市長には、頑張って小規模校の存続に尽力してほしい。

※「声」の主旨のみの紹介で、文章表現は変えさせていただきました。

●あなたのご意見ご要望をお寄せ下さい。

☺日本共産党 富山市議会報告☺
市議会だより

2022年1・2月　No.185
発行 / 富山市議会 日本共産党
議員控室　TEL 076-443-2156　FAX 076-441-8418
市議団ホームページ　http://toyamashigidan.jcpweb.net/

富山市議会インターネット中継　検索

詳しくは富山市議会インターネット中継（録画）をごらんください。ケーブルテレビは本会議当日の生中継のみです。